

# 外国語科における指導不安の軽減を目指した ICT 活用実践と評価

田中 惟以 (10114050)

## 1. はじめに

平成 32 年度からの新学習指導要領の実施に伴い、小学校の高学年において外国語の教科化が決まった。外国語科の導入は、急速なグローバル化を背景に、小・中・高等学校で一貫した外国語教育の実践やコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成を目指している（文部科学省 2017）。そこで、英語を教科として指導できる小学校教員の養成が急務となっているのが現状である。

しかしながら、「小学校外国語活動実施調査」（文部科学省 2015）の結果では、「英語が苦手である：67.3%」、「外国語活動を自信をもって指導できていない：65.4%」など、外国語活動に対して不安や苦手意識を抱える教員が多い。特に、「発音に対する不安」が大きいという調査結果も報告されており（チェン 2013）、発音指導に対する教師の不安軽減が課題と言える。さらに、現在の外国語活動の課題として、音声を中心とした学びが中学校段階の英語教育における文字の学習に円滑に接続されていないとの指摘もある（文部科学省 2017）。

一方、「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」（文部科学省 2013）では、ICT 活用による英語教育の推進が計画のひとつとして挙げられ、デジタル教材等の開発や ICT 環境整備の積極的推進が進められてきた。実際に、デジタル教材（Hi, friends! / 東京書籍出版）を活用して効果的に指導した実践も報告されている。教科指導における教員による ICT 活用は、映像や音声といった情報の提示が多く、児童の興味関心を高めたり、学習内容をわかりやすく説明するなどの効果がある（文部科学省 2014）。

そこで、本研究ではプレゼンテーションソフトを用いた発音学習教材の制作活動を中心として、外国語科指導における不安や苦手意識の軽減に寄与し得る ICT 活用授業を実践した。

## 2. 方法

本研究では、教員養成課程学生 17 名を対象に事前のアンケート調査および、ICT を活用した授業実践を行った。また、本実践の内容は大きく二つの活動から構成された。

前半では、外国語の教科化についての概要や現状および課題等の説明をした後に、筆者が作成した実践事例動画を視聴させた。さらに、動画視聴後に 3~4 名のグループで、外国語科に対して抱える不安を軽減させる手立てについて議論した。

後半は、プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いた発音学習教材の提案と制作活動を行った。図 1 に、実際に制作した教材の例を示す。今回提案した教材は、プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いたスライド教材である。発音に対する不安軽減をねらいとして、1 枚のスライドにイラストや画像とスペリングに加えて、ネイティブの発音の音声素材を添付した。使用した音声素材は、翻訳サイト（Weblio 翻訳）からダウンロードしたものである。被験者は、制作した発音学習教材を電子黒板に提示し、図 1 の音声マークをタップすることで音声の発音について確認した。

すべての活動が終了した後、9 つの質問項目に対して 4 件法による回答を得た。さらに、得られた回答を肯定回答と否定回答に分類し、直接確率計算によって分析した。また、本実践を通しての感想について、自由記述で得られた回答をカテゴリ別に分類し、集計した。

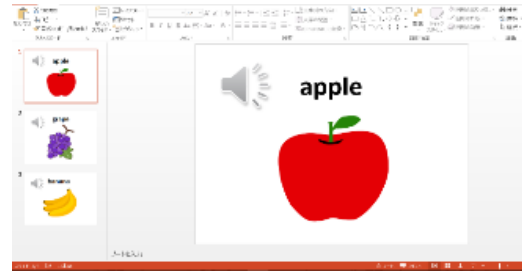


図 1 制作した教材の例

## 3. 結果・考察

事前に行ったアンケート調査の結果から、参加者全員が外国語科の指導について発音や授業デザインなどに対する不安を抱えていることが明らかになった。

表 1 には主観評価の結果の一部を示す。「外国語科を指導する自信が高まった」をはじめとするすべての質問項目に対して、肯定的な解答が有意に多かった。結果から、多くの参加者が本実践の内容と教材制作活動に対して高い満足感を示したことが明らかになった。

また、表 2 に自由記述による結果の一部を示す。「活動に対する情意」において、「とても勉強になった」という意見が多く挙げられ、本実践が参加者にとって意義のあるものであったことが推察された。しかし、「外国語科の指導に対する不安感が増した」、「本教材にはまだ改善の余地がある」という意見もあり、本実践に対する課題も明らかになった。

表 1 主観評価の結果（4 件法）

質問項目	肯定	否定	検定
外国語科を指導する自信が高まった	16	1	**
制作は容易だった	17	0	**
制作した教材を授業で活用したい	17	0	**

\*\* (p<.01)

表 2 本活動の感想（自由記述）

項目	数	具体例
活動に対する情意	9	・とても勉強になった ・ICT で教材を作るという発想が面白かった
教材の有用性	15	・子どもたちの身近にネイティブの発音を取り入れられる ・不安な発音も自作の教材で補えそう

## 4. まとめ

本研究では、外国語科の指導にあたって教員が抱える不安を軽減するために、発音学習教材を中心とした ICT 活用授業を実践し、評価することを目的とした。その結果、本教材は被験者らにとって容易に制作でき、指導者の発音や教材活用に対する不安の軽減につながることを示唆された。

今後の課題は、児童における発音学習教材の有用性について検討し、本教材を活用した実践および評価を行うことである。

## 参考文献

文部科学省（2015）平成 26 年度「小学校外国語活動実施状況調査」について、[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/gaikokugo/1362148.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1362148.htm)（参照日 2018.1.27）

（指導教員 瀬戸崎 典夫：初等教育講座）